不登校児童・生徒支援事例報告書

地域ボランティア活動を活用した取組について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、中学１年生であり小学校卒業時には不登校であった。中学校入学を機に登校を再開したが大きな音が苦手なため教室内では落ちつけず、次第に欠席が多くなった。２学期になり地域のボランティア活動に参加したことがきっかけとなり、自分のペースで支援室を利用しながら授業への参加が始まった。支援員が小学生の時より知っている地域の方ということが精神的な安定感につながり、登校への意欲に結び付いている。

具体的な取組

Ⅱ　加配教員の必須の取組
（１）組織力の向上（３）加配教員連絡協議会及び都不登校対策担当主催研究会の参加

①欠席生徒の把握と市教育委員会への報告
②各学年の特別支援教育コーディネーターへの資料作成依頼
③特別支援教育コーディネーターと連携した校内委員会の充実、校内委員会を通じ外部連携の強化
④研究会の報告

Ⅲ　加配教員による学校の実態に応じた具体的な取組
（１）校内体制の強化

①校内委員会（構成員：管理職、支援室担当教員（養護教諭）、特別支援教育コーディネーター（全体・各学年）、SC、SSW、特別支援教室巡回指導教員、不登校加配教員、他）の週１回の開催
②校内委員会での情報共有、具体的支援の検討及び支援状況の評価
③各種提出書類作成

Ⅱ　加配教員の必須の取組
（２）不登校に係る指定項目数値の減少及び解消（令和５年度）9/30 現在

・R4 年度不登校生徒発生率　6.1%
・R5 年度不登校生徒出現率　4.5%
・R4 年度内外の相談・指導等がない生徒 46%
・R５年度内外の相談・指導等がない生徒 ０%
・R5 年度登校日数５日以内の生徒　1.3%

Ⅲ　加配教員による学校の実態に応じた具体的な取組
（２）個々の不登校生徒への支援

①支援室利用生徒の学習ニーズの把握(支援室担当教員、SC、各学年特別支援教育コーディネーター等からの聞き取り）と学習方法の提案、関係教科等との調整
②一人一人の生徒の実態に合わせた登校計画の作成依頼、実施状況等の情報共有
③支援室や保健室で実施するSST 等紹介

支援室

成果

①校内委員会では、それぞれの立場で支援について提案を行い検討することで、校内体制が強化され、不登校の改善が図られている。
②不登校生徒の行動や心理面の特性に着目した支援で生徒の視野を広げ、ソーシャルスキルや自己肯定感を高めることができた。

課題

①教員一人一人の不登校生徒への更なる理解
②対応スキルの向上研修の必要性
③教員の不登校生徒への理解、対応のためのスキルの維持と強化